

ICTを活用した小学校社会科教材開発

和田 幸 司

一 はじめに

ICT (Information and Communication Technology) とは、情報・通信に関連する技術一般の総称である。従来、用いられてきたIT (Information Technology) とほぼ同様の意味で用いられており、「IT」に替わる表現として日本でも定着している。ICTは、ITの「情報」に加えて「コミュニケーション」性が表現されている点に特徴がある。

教育の情報化が大きな課題となつて久しいが、近年、ICT教育の実践は蓄積されつつある。小学校におけるICT教育として、稲垣忠氏は、「スキルとしてのICT教育」「コミュニケーションとしてのICT教育」「教科におけるICT教育」に類別し、その教育実践を明らかにしている。⁽¹⁾特に、「教科におけるICT活用」では、様々な組織によるリソース開発が行われている状況を考察し、身近なNHKによる放送教材の提供を高く評価している。しかしながら、児童の実態に応じた教材選択という点においては、さらに多くの教材開発が期待される。本小稿では、このような状況を鑑み、小学校社会科におけるICTを活用した二事例の教材開発および教材活用を提案するものである。

二 中世職能民を事例とした小学校社会科教材の開発

(一) 学習プログラムの全体構成

小学校社会科における民衆に視点を置いた歴史学習は、大きな変革期にきている。各地区で実践事例集やテキスト作成が意欲的に行われていることもその例証のひとつである。⁽²⁾ 中世都市論における研究成果や部落史研究の研究成果を、授業の中にどのように具現化していくかが現在、問われてきているといえる。

注目されるのは、外川正明氏による著書『部落史に学ぶ』⁽³⁾である。本書は二部構成となっており、『部落史に学ぶ―新たな見方・考え方にたった学習の展開―』、『部落史に学ぶ2―歴史と出会い未来を語る多様な学習プラン―』からなっている。氏の提案したプログラムの内容を次頁の表1にまとめる。⁽⁴⁾

表1からも分かるように、氏はこれまでよくありがちであった近世からの部落史学習を、中世からのスタートとしている。そして、学習の視点として、中世において「差別的社会的成立」を、近世初期において「差別的制度的成立」を、近代において「社会問題としての部落差別の成立」を教授することを明確にしている。また、それぞれの学習のキーワードとして、中世における「ケガレと排除」をはじめ、近世における「身分の固定化」「差別的強化」、近代における「制度的差別的撤廃」「部落差別」といった視点からの学習を明らかにしている。これらの点は、部落史研究の成果が生かされている点である。

そして、学習展開では、差別の中を生きた人々との出会いから、探求・見つめなおし・振り返りといった学習過程を通して、「生き方に学ぶ」という点を大切にしている。これまでの部落史学習が培ってきた点も重要視していることがわかる。

表1 学習プログラムの構成

	単元名	テーマ	ねらい	視点
中世	今に生きる 室町の文化	中世の文化 と差別され た人々	中世の頃、差別されていた人々が 民衆文化を支えていたことに気づく。	中世における差別は政治的また制度的に固定されたものではなかったが、人々の「ケガレ」意識にもとづく賤視観はこのころに成立した。(差別の社会的成立)
近世 I	それぞれの 身分とくらし	近世の社会 と差別され た人々	幕藩体制のもと身分制度がしだいに 確立されていった中で、差別されて いた人々厳しい差別の中をたくましく 生きていたことに気づく。	近世の幕藩体制は、前期から中期にかけて人々 の中にあつた賤視観を基盤に、身分制度を政治 的制度的に確立し固定化した。(差別の政治的 制度的成立)
近世 II	農民たちの 抵抗	差別の強化 と人々のくらし	幕藩体制がゆらぎはじめるも身分 制がより強化されたこと、それに対 して差別されていた人々は様々に 抵抗したことに気づく。	身分制の動揺は商品経済の発展による町人の 勢力の増大がその主な要因ではあるが、被差別 民の生活の向上や身分制への抵抗があつたこと もその大きな要因であつた。
近世 III	新しい学問の 影響	江戸時代の 文化と差別 された人々	差別されていた人々は、厳しい差 別の中でも社会や文化を支えてた くましく生きてきたことに気づく。	江戸中期に花開いた町人の文化を民衆レベル で支えたのは中世からの文化を継承発展させて きた被差別民であり、また、近代医学の契機とな つた人体解剖も労働を通して技術と知識を培つ てきた被差別民であつた。
近世 IV	長かった武士 の世の中が 終わる	差別への抵 抗と闘い	差別の強化に対して差別されてい た人々は、力を合わせて立ち上がり、 差別的政策を撤回させたことに 気づく。	江戸後期の差別法令に対して、岡山では被差別 民が団結して一揆を起こし撤回を勝ち取つた が、その闘いは近代につながる差別の撤廃を求 めた自己主張の闘いであつた。
近代 I	新政府の改革 と四民平等	明治維新と 差別された 人々	解放令によって制度はなくなった が、差別は残り強められたこと、差 別された人々は、生活を高め差別 をなくそうと努力したことに気づく	「解放令」によって政治的制度的な身分制度は 崩壊したものの、明治政府の諸政策が部落の困 窮化や生活の低実態を招き、貧困・不衛生など に対する「優生思想」が新たな偏見として生み出 される。(社会問題としての部落差別の成立)
近代 II	立ち上がる 人々	水平社の創 立と立ち上 がった人々	差別されていた人々は、厳しい差 別に負けず、自らの力で差別をな くそうと水平社を結成したことに気 づく。	米騒動を契機とした大正デモクラシーの動き の中、差別された人々は、多くの悩みや苦しみをく ぐり抜けて、団結し自らの力で解放を求めて立ち 上がった。
近代 III	人間として 生きる	差別のない 社会をめざ して	今日もおお部落差別が存在してい ること、その解決は国の責務である とともに、すべての人々の課題でも あることを考える。	被差別部落の生活実態や厳しい差別を解決し ていくために、国のとるべき姿勢や施策について 考えさせるとともに、ひとりひとりが差別を許さな い生き方を貫くことが求められている。

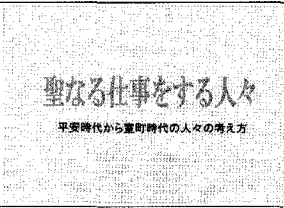
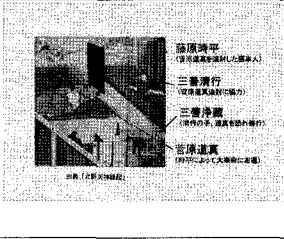
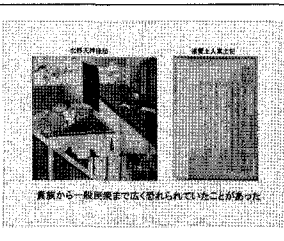
(二)「聖なる仕事をする人々」のICT教材開発

本節では、プレゼンテーションソフトを活用した「聖なる仕事をする人々」の教材を提示する。

本教材はデジタルスライド全十七枚であり、外川氏の提案した中世における授業設計の導入部分に使用できるように作成している。予定授業時間数は三時間である。

前半部分には、菅原道真をめぐる当時の社会の動きを事例とした「タタリ」の問題を扱い、後半部分では当時の社会で恐れられていた「ケガレ」の問題を扱った。そして、その「ケガレ」をキヨメる人々として、河原者を提示している。中世において恐れられていた「タタリ・ケガレ」を実際の史料から現実のものとして感じ取らせた上で、そのキヨメる役割をする人々がいたことに気づかせるように配慮している。以下に提示する。

資料1 「聖なる仕事をする人々」スライド

主な教師の 働きかけ	提示スライド
(1) 「聖なる仕事をする人々」をいう勉強をしましょう。	
(2) この絵の中に菅原道真がいます。どこにいますか。 (資料:「北野天神縁起」)	
(3) 菅原道真が北野天満宮に祭られるまでの経緯を説明しましょう。	<p>菅原道真のタタリをめぐる</p> <ul style="list-style-type: none"> 901年 道真、でつらあげで太宰府に左遷。 903年 道真、太宰府で死亡。 908年 道真を凌の黒霧、藤原菅原が病死。 909年 時平が病氣にかかる→病死。 930年 都に貴を奪えず、経綸天皇病死。 947年 道真、北野天満宮にまつられる。
(4) 三善清行の子の道賢上人は次のような言葉を残しています。 (資料:「道賢上人真土記」)	<p>「道賢上人真土記」(清行の子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実上真の道賢 「自分には10万の家業があり、数々のタタリは畏れの仕事である」 ・ 格別の経綸帝 「自分は無業の道真を凌ぎ、死に追いやり格別に落ちた」
(5) 貴族から一般民衆まで広く恐れられていたことは何でしょうか。	 <p>貴族から一般民衆まで広く恐れられていたことがあった</p>

<p>(12)</p> <p>ケガレには大きく3種類のケガレがあったと言われています。</p>	<p style="text-align: center;">死穢 血穢 産穢</p>	<p>(6)</p> <p>それは「タタリ」といことです。今日の授業の感想をノートに書いておきましょう。</p>	<p style="text-align: center;">タタリ</p>
<p>(13)</p> <p>ケガレの伝染について、当時は延喜式という法で定めていたのです(説明)。</p>	<p style="text-align: center;">ケガレについて定めた延喜式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人が死んだ場合は3日間家から出てはならない。 ・子どもを産んだときは、7日間は家から出てはならない。 ・病っている牛や馬が死んだら、5日間は家を出てはならない。 ・ケガレは9回うつる。それ以上はうつらない。 	<p>(7)</p> <p>この絵から分かったこと、不思議に思ったことを言しましょう。 (資料:「春日権現験記絵」)</p>	 <p>船の外に置かされてる人 定まらなくて済むおまじない 別の穢を授けられている</p>
<p>(14)</p> <p>そのケガレをキヨメる人たちがいました(職能民の説明)。</p>	<p style="text-align: center;">ケガレをキヨメる人々</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「河原妻」 ・「藪(ひのき)」 ・「鎌刈(はちたき)」 ・「穢(しよひ)」 ・「穢の籠」 ・「犬塚(いぬのくに)」 <p>ケガレを消める特別な力をもった人々である と畏(おそ)れられていた</p>	<p>(8)</p> <p>この絵から分かったこと、不思議に思ったことを言しましょう。 (資料:「餓鬼草子」)</p>	<p style="text-align: center;">餓鬼草子</p>  <p>穢がまきでいるのに 穢かされてる人</p> <p>穢の籠を運んでいる</p>
<p>(15)</p> <p>銀閣寺の美しい庭園も河原者が造ったと言われています。</p>	<p style="text-align: center;">銀閣寺の美しい庭園</p>  <p>・河原者親子三代「春則」が「小園」を「文政」朝によって作成された。</p>	<p>(9)</p> <p>風葬という言葉を知っていますか(空也上人の言葉の説明)。 (資料:化野念仏寺)</p>	<p style="text-align: center;">化野念仏寺(京都市)</p> <p>「風葬」は、死んだ人の遺体を、川や海に流すこと。死んだ人の遺体を、川や海に流すこと。死んだ人の遺体を、川や海に流すこと。</p> 
<p>(16)</p> <p>竜安寺の石庭も河原者によって作成されたと言われています。</p>	<p style="text-align: center;">竜安寺の石庭</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・白い石にされた15の石。 ・どころが、どこから見ては庭の石しか見えなない。 ・その見えなない庭のひとつに刻まれた「小太郎」(河原者の河原者の名前)。 	<p>(10)</p> <p>貴族から一般民衆まで広く恐れられていたことは何でしょうか。</p>	 <p>貴族から一般民衆まで広く恐れられていたことがあった</p>
<p>(17)</p> <p>河原者の果たした役割について、これから学習を深めていきましょう。</p>	<p style="text-align: center;">河原者の果たした役割 について、みんなで考えていきましょう。</p>	<p>(11)</p> <p>それは「ケガレ」といことです。今日の授業の感想をノートに書いておきましょう。</p>	<p style="text-align: center;">ケガレ</p>

本教材は、三時間扱いであり、(1)～(6)までを第一時、(7)～(11)までを第二時、(12)～(17)までを第三時と設定した。どの時間にも実物資料を提示し、中世の社会において、大きな影響力のあった「タタリ・ケガレ」といった観念を具体的に捉えさせるよう配慮した。

第一時では、「北野天神縁起」より、菅原道真を探させる活動を導入とした。この絵に表されているのは、菅原道真を追討した藤原時平、追討に協力した三善清行、清行の子であり後に道真を恐れ修行をした三善清藏である。児童は、もちろんこの三人のいずれかが菅原道真であろうと予想するだろう。しかし、道真は人間としてこの絵に表されているのではなく、時平の耳から出ている呪いを持った蛇として描かれている。この絵から、当時の社会や人々が「タタリ」に対する恐怖感を有していたことを、児童が関心をもって捉えることができると考える。そして、「道賢上人冥土記」の資料も重ねながら、当時の社会が恐れていた「タタリ」について認識を深めるよう留意した。

第二時では、「春日権現験記絵」や「餓鬼草子」より、家の外に寝かされている病人、火をたいておまじないをする人々、別の器を使わされている様子を捉えさせ、現在とは異なる死というケガレへの恐怖を考えさせるように留意した。そして、当時より伝わる風葬の地について説明し、空也上人の言葉を示した。これらから、当時の社会や人々が恐れていた「ケガレ」に対する恐怖感を、児童が関心をもって捉えることができるようになるであろう。

第三時では、延喜式によって「死穢・血穢・産穢」の三穢が定められたことを説明し、忌の日数や伝染についても定められたことを示した。そして、そのケガレをキヨメる人々があり、その人々が畏敬の念をもって見られていたことを示した。その存在としての河原者について説明を加えた。最後には、今後の学習が一層深まるよう

に、河原者が造ったとする銀閣寺の庭園、竜安寺の石庭を提示して、関心が高まるように留意した。

以上、児童が興味関心を持って学習を進行できるように、デジタル教材として、実物資料を画像で示しながら導入できるように設計した。ICTを活用することによって、児童に、中世における社会や人々の考え、被差別民衆の姿を生き生きと捉えさせることができるであろう。

三 「プロジェクトX」を活用した小学校社会科授業構成

(一) 教材内容の構成

「プロジェクトX」はNHK総合テレビのドキュメンタリー番組である。二〇〇〇年三月二十八日から二〇〇五年十二月二十八日まで放映されている。本番組は、昔の日本人の栄光を語り、主人公たちの行動と偉業をたえ、困難に立ち向かい成功させた挑戦者たちの記録をドラマティックに描いたものである。このTV番組を授業に活用することで、火事の恐ろしさやそこで働く人々の様子を捉えさせ、学習への関心意欲を高めさせるのに適している。新保元康氏は「社会科の教師こそ、このプロジェクトXを授業として実践すべきであった」と述べ、渡辺敏氏は「各分野で働く人のすばらしさにふれさせたい」と評価している。最も具体的な検討を行ったのは前田聡一氏である。氏は本番組五十四回放送の「腕と度胸のトラック使」の視聴を通して、宅急便プロジェクトの成功をもたらした社会と私たちの生活の変化について、授業レベルで明らかにしている。⁽⁷⁾ 本小稿では、前田氏の分析方法に学びながら、教材番組の内容と活用について明らかにしたい。

本教材「炎上、男たちは飛び込んだーホテルニュージャパン・伝説の消防士たちー」は、昭和五十七年の日本災害史上例を見ないホテルニュージャパンの火災を舞台にしたものである。この火災で絶望的といわれた高層階

から六十六人もの人命が奇跡的に救出されたことは知られていない。本教材は命がけの救出活動の中心となった東京消防庁の精鋭部隊「特別救助隊」の消防士たちの救出を克明に描いたものである。

本教材番組は「プロローグ↓パートA↓パートB↓パートC↓エピソード」の五つに分けられる。番組の内容を以下に記してみよう。

表2 番組の内容と習得が期待される知識

場面	内容と習得が期待される知識
プロローグ	○番組の要点と製作者の解釈をコンパクトに提示。
パートA	○特別救助隊は逃げ遅れた人の救出を専門に行うレスキュー部隊であり、厳しい訓練をしている。
パートB	○真冬の真夜中にホテルの火災が発生した。火の勢いが増し、はしご車では近づけない場所があった。特別救助隊は、屋上から部屋に飛び込み、九人の命を助け出した。
パートC	○「フラッシュオーバー」の危険による自らの命も顧みず、一人の命を助け出した。救助隊の隊長と隊員の関係は命を預ける関係であり、真の信頼関係を築いている。チームとして大災害に立ち向かっている。
エピソード	○特別救助隊のもつ社会的意味を明確化。

以上の内容がキーワードとともに提示され、共感的に理解がなされるように構成されている。特に、パートB・Cでは消防士の強い使命感が共感的に示されているのである。

(二) 学習プログラムの全体構成



前節にて、提示した教材を活用する学習プログラムを提示する。

本教材は学習指導要領(4)を扱うもので、比較的身近な災害である火災を取り上げ、消防署で働く人々の日常の取り組みや緊急事態に対する備えをはじめとする工夫や努力をつかむとともに、学校周辺の防火施設や設備などを調べる活動により、地域ぐるみの取り組みが行われていることに気づかせるものである。学習指導要領の柱のひとつである表現活動においては、自分たちの地域の安全を見直すための防災マップ作りや防火の啓発を兼ねた防火ポスター作りの活動を取り入れることを視野に入れている。さらに、火災は実際に映像で見ることで、その恐ろしさや働く人々の様子をとらえ学習への興味・関心を高められることから、ニュースや特別番組などICTを活用した授業作りが効果的となる。

本教材が想定する単元「地域の安全なくらしを守る―火事から人々をどう守るの―」の目標は、「火事から人々の安全を守る活動に関心をもち、消防署を中心とした緊急に対処する体制、火災現場での活動、また、火事に備える消防署の仕事や地域の消防施設、消防団の活動などについて、見学や調査・ビデオ視聴などを通して調べ、人々の安全を守る関係諸機関の働きと人々の工夫や努力を考えるようにする」ことである。

指導構成としては、次の学習プログラムが考えられる。次頁にその構成案を示す。

資料2 「地域の安全なくらしを守る - 火事から人々をどう守るの -」指導構成案

<p>第 一 次 問 題 を も つ</p>	<p>(学習活動：3時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身近な地域での火災の経験や防災訓練を通して、気づいたことについて話し合う。 ○火事の発生件数の資料から、分かったことを話し合う。 ○火災から私たちのくらしを守る仕組みや人々の働きについて調べる計画をたてる。 	<p>(予想される児童の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火事になると、けが人が出る。こわいね。 ・火事にならないようにするために備えるための活動をしているよ。 ・消防署に見学に行こう。 ・見学の仕方やインタビューの仕方を考えよう。
		
<p>第 二 次 調 べ る</p>	<p>(学習活動：10時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○消防署を見学して調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・119番の連絡の仕組み ・現場での活動について ・火事に備える日常の仕事 ○地域の消防設備を調べる。 ○地域の人々はどのように協力しているのかを調べる。 ○ビデオで調べる(本時)。 	<p>(予想される児童の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すばやく行けるように工夫しているんだ。 ・火事を防ぐためにも努力しているんだ。 ・消火栓や防火水槽が町に散らばっているんだ。 ・地域の消防団は消防署のお手伝いをしている。
		
<p>第 三 次 ま と め る</p>	<p>(学習活動：2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調べたことをもとに、火事から人々を守るための働きや努力についてまとめる。 ○地域の防災マップを作る。 ○防災ポスターを作る。 	<p>(予想される児童の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火事を消したり防いだりするためにいろいろな人が働いているのが分かった。 ・消防署の人々は私たちの安全を守るために24時間働いていることが分かった。

(三) ICT活用場面における主な教師の働きかけと留意点

ICT活用場面における教師の働きかけと留意点を一覧表にして示す。

表3 ICT活用場面細案

教師の働きかけ	指導上の留意点
<p>一、今から、5つの場面に分けてビデオを見ます。 このビデオのキーワードをノートに写しましょう。</p> <p>二、分かったこと、思ったこと、気づいたことをノートに 箇条書きに書きなさい。</p> <p>三、各場面のメモを付箋に書きなさい。</p> <p>四、グループごとに話し合ったことを発表しなさい。</p> <p>五、消防士はどんな努力をしていますか。</p>	<p>○5つの場面に分けて視聴すること、場面ごとに時間をとってノート整理することを伝える。「プロログ」「パートA」といった具合にテーマごとに整理させる。プロログの場面ではビデオ視聴のポイントとなる大事なキーワード「昭和五十七年」「大都会」「伝説の消防士」「家族の姿」「明け暮れる訓練」「生死をかけたチームワーク」「蝶ネクタイの男」「迫りくる炎」「フラッシュオーバー」「決死の突入」が提示されることを伝える。</p> <p>○キーワードが出てきた場面では教師が助言を行い、習得が期待される知識がスムーズに理解されるように配慮する。5つの場面ごとに部分視聴する。その都度、メモ書きをさせる。</p> <p>○それぞれのメモを色分けされた付箋に書く。グループごとに付箋をKJ法により整理させる。同じ気づきがあったものに注目させる。</p> <p>○グループ毎に話し合ったことを発言させる。視聴の主眼であるパートBとCに児童の思考を集中させる。</p> <p>【予想される子どもたちの反応】 特別救助隊は9人の命を助け出した。はしご車では近づくできなかった。ひとりの命を助け出すためにがんばった。自分のいのちを考えずに救助した。隊長と隊員はすごい絆がある。</p> <p>【予想される子どもたちの反応】 様々な救急道具（ロープや空気ボンベ）を使って救助をしている。チームになって、協力して救助をしている。実際の救助のために、毎日訓練をしている。</p>

以上、ICT活用場面における教師の働きかけと留意点を示した。

教材番組視聴が長時間になることから、部分視聴を行っている。また、ビデオ視聴のポイントとなるキーワードを最初に提示し、習得が期待される知識がスムーズに理解されるように配慮を行っている。そして、グループごとにKJ法により意見を整理させて、同じ気づきのあったものを中心に発表をさせ、話し合いが焦点化するよう配慮を行った。

このようにして、ICT活用場面が単なるビデオ視聴の時間ではなく、学習の文脈にそって活用できるように留意した。

四 おわりに

本小稿では、小学校社会科におけるICTを活用した二事例の教材開発および教材活用を提案してきた。ICT教育のスタートラインとなる小学校で育てるべき「情報活用能力」の中心は、「情報活用の実践力」である。本小稿で示した「聖なる仕事をする人々」の教材開発、「プロジェクトX」を活用した授業構成は、従来のメディアで学んできたものとは異なる歴史観や社会認識を学ぶことになると考える。その意味で、これもICTによって生み出される「情報活用能力」とは切り離せない関係にある。学習活動のねらいを実現するために、ツールとしてのICTを有効活用することは重要である。

さて、こうした「情報活用の実践力」育成のためには、他方、基礎・基本としてのスキルを系統的におさえることが大切であることはもちろんであるが、目的に応じてどのような情報ツールを利用するのが教科におけるICT教育では重要である。

例えば、社会科学学習では調べ学習の中でのICT活用や学習のまとめでの表現手段としてのICT活用が考えられる。また、学校間交流学習など、テレビ会議システムを活用した情報交換は、共同調査や協働活動の可能性を開いていくだろう。こうしたICT活用における詳細な検討については今後の課題としたい。

- (1) 稲垣忠「小学校におけるICT教育の実際」(『ICT教育の実践と展望』(日本文教出版、二〇〇三年)六〇〜七一頁)。
- (2) 鈴鹿市部落史作成委員会『部落史学習への誘い』(鈴鹿市教育委員会、二〇〇一年)、人権教育指導者用手引き編集委員会『気づく・学ぶ・広げる人権学習：人権教育指導者用手引き』(和歌山県教育委員会、二〇〇四年)、鳥取県教育委員会人権同和教育課『学習者の視点から学びを創る』(鳥取県教育委員会、二〇〇三年)、大阪府教育委員会事務局教育振興室地域教育振興課『人権に関する学習プログラムとその展開パート二』(大阪府教育委員会、二〇〇二年)などがある。
- (3) 外川正明①『部落史に学ぶ―新たな見方・考え方になった学習の展開―』(解放出版社、二〇〇一年)、同②『部落史に学ぶ2―歴史と出会い未来を語る多様な学習プラン―』(解放出版社、二〇〇六年)がある。
- (4) 外川①前掲書、三四〜三五頁。
- (5) 新保元康「プロジェクトXに涙している場合ではない」(『社会科学教育』五二二(明治図書、二〇〇二年)一〇八〜一〇九頁)。
- (6) 渡辺敏「働く人の夢を知ろう」(『社会科学教育』五二二(明治図書、二〇〇二年)一一二〜一二三頁)。
- (7) 前田聡「共感的理解型TV番組を活用した社会科学授業構成」(『社会科学研究』第六一号(全国社会科学教育学会、二〇〇四年)四一〜五〇頁)。